



Walk with Children めぐる



せいび

224号

2026年6月

サレジアン国際学園目黒星美小学校

「光の子」として生活しなさい。

実に光が結ぶ実は、あらゆる善意、正しさ、真実をそなえたものです。(エフェソ 5章8節~9節)

校長 シスター小島 理恵

色とりどりのアジサイが初夏の訪れを感じさせてくれる季節となりました。しかしながら、今年の不順な天候に7、8月の暑さがどれくらいになるのだろうか、少々恐れも感じます。皆様いかがお過ごしでしょうか。

今、1年生はアサガオを、2年生はミニトマトを教室前のデッキで育てています。毎朝、登校後に支度を済ませると、水やりをするため子ども達はデッキに向かいます。

自分のプランターだけでなく、友達のものにも一緒に水やりをする姿、水を入れたペットボトルの扱いが分からない友達を助ける姿、水道からの水が流れたままであることが分かったと、自主的に蛇口をしめる姿など、誰も見ていなくても、気付いたことが実行できる子ども達の姿に心が和みます。

先日、ミニトマトの茎が1本折れてしまった子どもがいました。おそらく休み時間にボールが当たったかと思われます。悲しそうにしていたのですが、幸いその1本にはまだ花がついていませんでした。花がついている茎はしっかりとており、花も元気です。それを伝えると「良かった〜。お花は…1、2、3…」と数え、「お花が取れてなくて良かったあ!」と。花がなければ実ができないこともしっかりと分かっています。様々な体験を通して、人を大切にすること、植物や動物を大切にすることなどを学んでいっています!



教皇様のために祈る日

~歴史が身近になった瞬間~

P. A. M. 担当

私事ですが、昔から歴史が大好きでした。特に世界史が好きで、高校時代は世界史選択だったほどです。その際、バチカン市国という小さい国があって、そこにキリスト教のトップの司教様がいらっしゃることに、そしてそのトップという役職は教皇様と言い、それは「コンクラーベ」という選挙によって決定されることなど、高校の歴史の教科書で一生懸命学んだことを思い出します。そして昨年5月「コンクラーベ」が行われ、新たに267代目のローマ教皇として、レオ14世が即位されました。まさに、歴史の教科書の中だと思っていたことが、今、目の前で起こっている出来事として、歴史が身近に感じられた瞬間だったことを今でも鮮明に思い出します。

本校では6月に教皇様のために祈る日の集いが行われ、P. A. M. の児童が、教皇様の生い立ち、そして教皇様がどのような考えを私たちに伝えてくださっているかなど、たくさんの方面から教皇様について調べ、全児童に伝わるように工夫を凝らして教皇様の紹介をします。

教皇様の生き方を学び、倣うことで、今を生きる子ども達が少しでも教皇様を身近に感じると共に、教皇様から私たちに渡されるメッセージを真摯に受け止め、今自分たちに何ができるかを考えるきっかけとなれればと願っております。

聖母祭 5月21日

はじめての聖母祭

1年生担任

9日間の徳の花を積み重ね、心の準備をしていきました。マリア様に献花するバラの花びらを嬉しそうに持ってきた子どもも多くいて、初めての聖母祭に向けて、マリア様の喜ぶ顔を想像しながら、準備を進めていきました。「心をこめてマリア様のお祈りをしたよ。」「苦しんでいる人のためにたくさんお祈りしたよ。」などの声が聞こえてきました。

いよいよ聖母祭、カーネーションを手を持って、聖母行列に参加し、マリア様への献花に目を輝かせていた子ども達、「みんなで聖歌を歌うのが楽しかった。」「マリア様がお花に囲まれて綺麗だった。」「神父様のお話を一生懸命聞いた。」「マリア様へのお祈りを心を込めてしたから、神様が喜んでくださったと思う。」と様々なことを感じていました。

マリア様のような清い心になりたいな、という子ども達の思いをこれからも大切にしていきたいと思います。



せい母さいで学べた

3年生

わたしは、マリア様にかんしゃをしてせい母さいにさんかしました。そして、神父様のお話が心にのこりました。その話は、「みんなの生活は、先生がたすけてくれたり、家族にたすけてもらったりといろいろなかたがたにささえられている」というものでした。わたしは、自分の生活を思いかえしてみても、「たくさんの人とささえ合って生活しているのだな」と思いました。わたしは、みんなでささえ合うために、心やさしいマリア様のような人になりたいと思っています。それは、かんたんなことではないかもしれないけれど、がんばりたいと思います。マリア様、これからも見守ってくださいとうれしいです。

高学年の聖母祭

5年生

私は初めて高学年になって聖母祭をしました。花まきをするのは初めてで、とてもきんちょうしました。

だけど、マリア様をお祝いする機会はあまりないので、心をこめて参加しました。マリア様はとても清くやさしい心を持っていました。私たちもマリア様のような清い心で過ごすために、思いやりの気持ちで過ごすことが大事だと思いました。また、マリア様の心に近づけるためにはどうしたらよいかを考えて過ごすことが必要だと思います。

私は来年の聖母祭も思いやりの心を持ち、落ち着いた心で迎えられたらいいな、と思いました。

